

東アジア脱原発・自然エネルギー311人宣言

2011年3月11日、大自然は巨大な津波によって東アジアでは初の近代物質社会を開いた日本を直撃しました。日本の東北地方の福島原発の爆発により、安全な原子力という根拠のない世界的な神話は崩壊しました。この大震災は物質的豊かさや消費に基づいた文明に対する深い省察を、アジアを越えて人類史的に求めています。

依然として原子力への執着から抜け出せていない韓国・中国・日本

ドイツを始め、ヨーロッパ諸国の核放棄の約束や宣言は、チェルノブイリや今回の福島原子力発電所事故から始まっています。ドイツは、老朽化した原発7基の即刻閉鎖と2022年までの脱原発を宣言しました。原発の保有密度が世界で2番目に高いベルギーも原発を放棄することにしました。スイスも原発の設計耐久期限を超え次第、完全閉鎖する脱原発政策を確定しました。

最も直接的な当事国である韓国・中国・日本は驚いたことに依然として原子力への執着から抜け出せていません。既に、14基の原発を持つ中国は3・11大震災の後にも27基の原発を中国の東海沿岸に追加的に建てています。日本は国民の80%が脱原発を支持しているという世論にも関わらず、50%を原子力に頼るという電力政策を公式的に廃棄していません。韓国は21基の原発を2024年まで34基に拡大し、また、200兆ウォンをかけて原発産業を拡大するという計画を持っています。これは4大河川の土木工事費用の10倍であり、朝鮮半島の東側を事実上原子炉化する破滅的な発想です。

環境汚染や生態、気候変動において既に日中韓には国境がありません。韓国は国内の原発以外にも中国の東海岸や日本の西海岸の原子力発電所に囲まれています。日本の九州・島根の原発は東京よりも韓国の方に近いのです。今回の福島原発事故では放射能が韓国へも飛散しました。東アジアにおいて、核の危機は互いに絡み合ったまま、悪循環しています。これを平和と生命の輪に変えることは日中韓の市民社会の逆らえない運命的な任務として浮かび上がりました。

日中韓が脱原発を実現するために東アジアの市民社会の連帯を

歴史から学んできたように、核は反平和であり、反生命で、また、反市民的で、核と原子力なしにも人類は長く生き続けてきており、核放棄後にもこの文明社会はいくらでも持続できます。大自然は人類が生き抜く力や知恵を初めから必要なだけ公平に与えてくれました。太陽・風・水がその美しい答えです。核放棄はエネルギーの放棄ではなく、自然エネルギーへの転換を意味します。長い間、幻想だとして無視されてきた風力エネルギーや太陽エネルギーは年平均30%の速度で発展しています。

世界で最も危険な原発地帯である日中韓が脱原発を実現するためには、東アジアの市民社会の連帯が切実です。北朝鮮を含む朝鮮半島の非核化の実質的な解決もここで初めてできます。核の危険性に関する情報を共有し、自然エネルギー技術と知恵を分かち合うことによって、東アジアにおいて対立ではなく平和が、破壊ではなく生命が中心に位置づけられることになるでしょう。我々はこの宣言とともにこれを実現する枠組みとして、東アジア脱原発・自然エネルギーネットワークを発足させます。

韓国・中国・日本・他の311人による東アジア脱原発・自然エネルギーネットワーク

東アジア脱原発・自然エネルギーネットワークは、3・11大震災を教訓にするという意味から311人で構成されます。韓国、日本それぞれ100人ずつ、残りの111人は中国やその他の国の人々が参加します。この宣言は日中韓の市民連帯の新たな歴史を切り開くだけでなく、3・11大震災を平和や生命の自然エネルギー時代へと進んでいく立派な知恵の第一歩になると信じます。

電気を使用している市民の皆さんも脱原発と自然エネルギーへの転換をめざすこの新しいネットワークに参加して、東アジアの偉大な歴史を築きましょう。